

石川先生



ごくろう様でした



元母校校長、前新潟市教育長石川健四郎先生は、母校金焼直後の昭和三十三年四月一日第二十代校長として新潟県学校指導課長から着任。以来六年間母校再建の責任者として日夜心血を注いで復興の難業を推進され、体育館を除く全校舎を県下高校としては初めての鉄筋コンクリート建の近代的校舎の竣工を終えられ、昭和三十六年三月三十日阿部藤策校長にバトン

を渡されて退任、直ちに待ち構えていた渡辺新潟市長に懇請されて市教育長に就任、これ又三期十年間新潟地震の大被害を受けた学校施設の復旧並新設を達成され、その手腕人格は万人の均しく高く評価するところであったが、今回

に自ら勇退を実現されたことはま

ことに先生の高風をうかがわせる清々すがすがしい出所進退であった

わが青山同窓会としては歴代校

長中最も因縁親交の深い間柄であ

つたので、今、先生をお送りする

に当り惜別の感情真に痛切なるも

のがあり、特に稿を起こして先生

を偲ぶ所以である。



石川健四郎先生 送別会の記

御あいさつ

石川 健 四 郎

去る十七日、多勢の方々のお見送りの中に長年住み慣れた新潟を離れてまいりましてから早や十日余りとなりました、その間十二日には多くの同窓諸賢や昔の同僚諸兄御参集の下に異例の送別会を催していたとき、その上過分の記念品料まで頂だいて身に余る光栄と存じ感謝に堪えません。

私が新潟高校に勤務したのは昭和三十年四月からの六年間ですがこの期間中は専ら火災後の復興に明け暮れたと言つても過言ではないと思いますが、その間ににも校舎は新らしく生れ変わったのに流れています。

新潟を離れて一層皆様の御厚意が

いさつといいたします。

やがて創立八十周年を迎える一百年を数えても益々隆昌の機運を期待してやみません。

刻々に変つてゆく時代です。

これがまさに時代です。

私が新潟高校に勤務したのは昭和三十年四月からの六年間ですがこの期間中は専ら火災後の復興に明け暮れたと言つても過言ではないと思いますが、その間ににも校舎は新らしく生れ変わったのに流れています。

新潟を離れて一層皆様の御厚意が

いさつといいたします。

身に沁みて一筆御札を申上げござります。

尚、先生に対しても、多年教育界に尽した功労の故を以て、昭和四十六年四月二十九日付で勲四等瑞宝章が授与されたことを記して置きたい。

先生は酒間を一々参会者の席を廻られて懇意なご挨拶を交えられたが、定刻になつて、先生のご健在とご多幸を祈り等々副会長の発声で一同万才を唱和すると、それに応えて直ちに先生は青山同窓会と新潟高校の弥栄を発声され、まことに心暖まり名残りの尽きぬ会を開じたのであった。

六月十七日午後三時駅頭を埋めた雲霞の人々に送られて、先生を窓会と新潟高校へ赴任早に心地よいものでした。

窓会と新潟高校へ赴任早に心地よいものでした。

ラグビー部

燐たる栄光の秋を待たずして筆を執ることは時機尚早の誘りを免れないと思いますが、創立二十五周年を迎えて四半世紀を回想する機会を与えたこととして思い出

の試合や人脈など二三つを記します。

59回 関根彰圓



特集 栄光燐たり

部、剣道部、相撲部、端艇部その他の猛者が集まって練習を開始したのでした。皆川竹次郎先輩（外語OB・現協会長）の指導のもと、旧制高校や新大医学部の学生先輩達の胸を借りてラグビープレーの模索が始まったわけです。二十二年四月より正式に部として発足し、同七月には新潟商にもラグビー部が生れ、競争相手ができ切磋琢磨するようになりました。戦後も物資窮乏の時代でありますから用具もままならず、ラグビーブレーズは手に入らず裸足でグラウンドを走り、ジャージーのユニホームもスフのピラピラのもので一度雨に打たれれば、いくらくしく上げても袖は膝まで垂れ下がるというひどい姿でした。初の県外試合は二十二年の全国大会関東地区予選で、早大のグラウンドで横浜商業と対戦しましたが23-0でまず当然のように敗退しました。フォワードは米を食っている体力に物を言わせて押しまくるのですが、バックスにボールをまわすと激しいタックルに会って後退するばかりで初陣を飾れませんでした。二十三年学制改革で高等学校となり、またチームも新潟工、北越商、新発田と次々に増えてリーグ戦が組めるようになりました。以後三年間は一步先んじていたせいもありて連戦連勝県下に敵なしの状態でした。他の運動部も大体同じように優位に立っていました。しかし全国レベルから見ると、ようやく芽生した新潟のラグビーはまだ力不足でした。当時国体も全国大会も、全国から8チームしか出場できませんでした。新潟は東京都を含めた関東甲信越地区にブロックされていたわけです。二十三年の国体予選では巨漢山下三郎（早大一南）の欠場も禍いで、雨の一戦で高崎高に12-3で敗れました。二十四年には夏休みに東京まで遠征し、日比谷高と練習試合をやり力試しになりました。余談ですが、後年筆者が京大在学中好敵手東大との対戦でこの時の手選手とグランドで再会し大いに手交を温めたことがありました。

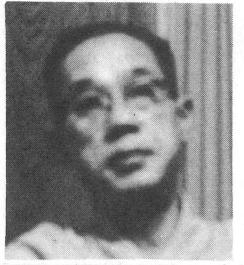
人材の輩出全国で活躍

二十四年、二十五年頃のチームは後の三十八年のチーム並びに今年度のチームと過去歴代三強に數えてもよいのではないかと思っております。ことに当時のチームメートには、新潟ラグビー界のまとめ役並河健介、新大ラグビーを育てた加藤吉策、新潟国体を成功させた歌代莊平あるいは韋駄天ウイングの異名をとった阿部泰三（新太田圭介・福助足袋）など大学、社会人ラグビーで活躍した多くの人材が輩出しております。ことに大塚満弥は全日本チームのハーフとして、来日したオクスフォード

大やケンブリッヂ大と対戦し、日本を代表するプレーヤーとして全国のラグビーファンの血を沸かしたものでした。彼はレスリングの加藤三兄弟（吉策、新策、隆策）はいずれもスタンダードオフハーフの同じポジションで名手と謳われ、また兄弟選手の活躍もありました。但し、彼の尊父のラグビー部に対する理解と援助とともに忘れられぬものでした。また大塚（満弥、徹）後年の出来島（精一、保）宮原（敏）など家族ぐるみスポーツの楽しみを増すものと言えましょう。

田会場で現役、O.B.喜び合つたことは忘れられません。

昭和四十六年五月
期待される今年度



くだらぬかもしけぬ話

35回 小山久一

と言うので、当事者の間で色々のプランが計画されるとの由であるが「五十年前の今」は中学一年生のぼくである。たしか伊狩・鶴木で調製された小倉の詰襟、金ボタンで靴は皮の編み上げである。

筆で「六十年前の今」という本を持つて居る。時^トの経過の中に立たないといつても、自分を書いて居るのは現実の自分であるから畢竟隨想ものにちがいないのだが題名のつけ方が何か謎の問答めいた皮肉な言葉である。然し生物の実像は生命を持つて居るから時間と共に変化し遂には元より其に永遠に当惑するこまつ

死んでゐる

序の淨ハリの鏡も万更荒とうけいの話ではあるまい。そしあの時の今はその儘嚴として何かに今もある。

湯の山駅に、食事の後、有樂亭へ。連中はあまり居ない。めいめい己が生活の軌道を持って居るからである。然し四十年振りの男にシッカリやれと言う純粋な励ましを惜しむ気持の者は居なかつた。誰が働いてやつたか、やらなかつた

政家や実業家中には七十過ぎた現役がワンサと居るから六十ソコでかれこれ言つても始まらぬが、今や外貌は「独り座して双眸を悲しむ、白髪終に変じ難し」で定年後の第二の人生を静かに歩んでゐる。

酒友酒鱷

35回

手合いが大部分である。
いにしへて知るべしである。

「遥々として白雲を望み、古えを
懐しむこと」に何ぞ深き」昔は懐
へことざうなごが、へこくえご
や」とフ^トが回ると、うれしへ
今でもたまさか誰言うとなく
「オイ、人々に集つて一杯飲む

青山の旧校舎は跡方もなく、カボ
とに数少い市内在住の中から
とに数少い市内在住の中から

チヤ畠や砂山も様相一変、存命の
旧師すら殆ど鬼籍に入つてしまわ
寄つてくる。考へてみると世の
人の集る機会は人々個々それぞ

れた現在、有るは唯旧友、学友の
に多いか、和害得失の伴なむれ
みである。もうこの齢では健在な
合というは殆ど無いのではちま
まいか。手前、商元室だからそ
ういふ親を持つ者も恐らくあるまいか

ら、ガキの頃からの古い長いきずなどいふ点では、女房すら及びも例で申そうなら、取引先に招かれる会、その逆に得意先の招待会

つかぬのか、旧友学友などということになりはせぬか、その貴重さ、も

校歌を一番唱いあげて散会、い／＼に夜の巷に消えてゆく我友は相原良君他四十八名、今年八月～十月の某日、新潟市内での法要を予定して居ります。際は同期諸君は是非御出席下さいことであろう。同期各位の健を祈る。　（福山記）

○追記　　（福山記）

三九回卒同期の戦死、病死の誇り高き（？）青山三九会一同まだ（）これからも長持ちしていくことであろう。同期各位の健を祈る。　（福山記）

○御案内

何かにつけて、ガタ／＼騒ぐ二期、という噂が立ちはじめるとか。新年会は、一月十四日後六時から東堀前通九割烹にて四十数名のモサが集合。土輩の加賀田二四夫氏、後輩の早卓氏、大名一郎氏、吉田雅芳氏特別来賓として出席された。

宴は正に山賊の酒盛りよろし大膳の神サシンが、一階から瓦を見上げて息をつめるホド。

二十数年前、新中のグランドでび廻った青嶺健児の、天真爛漫の本領を如何なく發揮し、時のを忘れ「玲瓏の天仰ぐ時……」懐しの校歌で幕。深更、名残惜しみつつ、三々五々教会、街々が市議、市長選でたけたりの四月十七日。三月会例会を主五、清水フードセンターで開催、三十数名で、事業の情報、政界報等々で花を咲かせ、司会の妙相俟つて、サロンの効果は大きかった。

六月四日、公示、二七日投票の議院議員選挙では、地方区に佐隆君が出馬。各期の総力を結集していたとき、絶大な支援と激励賜わり、二七日見事栄冠を、さ

青陵健児の群像

新潟青年会議所の巻

明年で創立八十周年を迎えるわが母校は、幾多、俊秀を世に送りだし彼ら、それぞれに所を得て、活躍しているのは誠にもつて、よろこばしいことである。そこで編集部では、新潟市内を中心に、数あるグループ、団体の中での青陵健児の活躍ぶりをながめてみるべく、今回は先ず、新潟のあい様たち、ヤングパワーの集まりである。新潟青年会議所にスポットをあててみた。

我々の所属する青年会議所の活動の目標は、「明るい豊かな社会」の創造であり、その新しい社会をリードするにふさわしい人間をつくることである。新潟にこの青年会議所が誕生してから今年で十七年を迎え、創立当初の「個人の修練・社会への奉仕・世界との友情」の三信条は年を追つて具現化され、我々の活動とは要するに、「指導力の開発と社会開発」であるとの事業スローガンに固まってきた。会員は市民社会の一員として市民との共通の生活基盤に立ったものの考え方、見方を出発点とし、市民の共感を求め、住みよい明るい豊かなまちづくりに向つて努力することともに青年会議所の日常活動の場を通じてわれわれ個人個人をよりよく開発することが青年会議所活動である。現在全国四百五十四の都市に三万有余人の会員を擁し、戦後の青年運動最大の団体となつた。またこの組織は国際的な連けいをも八ヶ国にまたがる。昨年度はこの国際青年会議所の会頭を日本より送りだしている。

現在、新潟青年会議所は百二〇名の二〇才から四〇才までの青年で構成されている。四〇才までの青年は、先輩、後輩がここでは同じ目標をかげて日々の活動をおこなっている。先輩、後輩がここでは同じ目標をかげて日々の活動をおこなっている。

今年度理事長の要職にあり、メ

飯村康君 (五十九回)
中野進君 (六一回)
西村俊男君 (七三回)
山田富彦君 (六九回)

○青少年開発委員会
石田瑞穂委員長 (六七回)
宮川忠和副委員長 (六五回)
中野仁副委員長 (六七回)
杉本雅義君 (七一回)
佐藤豊一郎君 (六八回)

村木繁夫君 (六〇回)

○指導力開発委員会
田中賢一郎委員長 (六四回)
山崎勝朗副委員長 (六四回)
水上耕一郎副委員長 (六八回)
五十嵐昭雄君 (六一回)
米本達二君 (六一回)
畠野晋也君 (六四回)

○総務委員会
伊藤清治委員長 (六一回)
星野昇副委員長 (六〇回)
小杉秀一君 (六一回)
永井弘君 (六四回)

○広報委員会
新谷稔委員長 (六一回)
永井健司副委員長 (六七回)

○国家問題委員会
町田仁委員長 (六二回)
坂井恒雄君 (五七回)
鶴木秀司君 (七四回)
斎藤彰副委員長 (六四五回)

○会員開発委員会
早山康之君 (五七回)
小島専資君 (六八回)
橋本誠君 (六六回)
上原明君 (六二回)
吉田雅芳君 (六四回)
石井壯一君 (六一回)

○経営者開発委員会
笹川一雄副委員長 (五九回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
笹川正顕委員長 (五九回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
笹川正顕委員長 (五九回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会
吉田正顕委員長 (六一回)

○社会開発委員会
小林昭二君 (六〇回)

○社会開発委員会
池田元嘉委員長 (六一回)

○社会開発委員会<br